



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2730

---

平成 27 年 11 月 21 日  
都城市 メインホテル

国際ロータリー2730 地区 奉仕プロジェクト部門  
職業奉仕委員会 研修会

式次第

13 : 00 開会

- 1 職業奉仕委員長 講演
- 2 2012～2013 年度 国際ロータリー 会長 田中作治様  
記念講演 DVD の放映
- 3 休憩
- 4 グループディスカッション  
テーマ『職業奉仕とは何か?』
- 5 発表
- 6 総括

15 : 00 閉会

平成27年(2015年)11月21日(土) 13:00~15:00  
**職業奉仕(4つのテスト)委員会 研修会 出欠名簿**  
 メインホテル(都城市)

分区	R C 名	役職名	氏名
鹿児島県北部	出水	奉仕プロジェクト委員長	森代 武志
	阿久根	欠席	—
	川内	欠席	—
	薩摩川内	欠席	—
	串木野	欠席	—
	宮之城	ガバナー補佐	小牧 紘一
	大口	職業奉仕	井手 俊朗
鹿児島県西部	伊集院	欠席	—
	加世田	欠席	—
	枕崎	欠席	—
	頰娃	職業奉仕委員長	吉村 忍
鹿児島県中部	指宿	会長	小林 義則
	霧島	欠席	—
	国分(2名)	奉仕プロジェクト委員長	吉留 幸史
		ライブラリーリーダー	川崎 千加
	国分中央	欠席	—
加治木	会長	新川 義博	
鹿児島県東部	始良	欠席	—
	鹿屋	奉仕プロジェクト委員会副委員長	中原 雄一郎
	串良	職業奉仕委員長	小野 光夫
	鹿屋西	職業奉仕委員	樋山 時美
	志布志	欠席	—
	かのや東	職業奉仕委員長	宮田 正広
	きもつき	職業奉仕委員長	山下 健一
	南九州大崎	奉仕プロジェクト委員長	中山 昌人
	志布志みなと	欠席	—
	鹿児島県市内	鹿児島	職業奉仕委員長
鹿児島南		職業奉仕副委員長	小原 克彦
鹿児島西		欠席	—
鹿児島東南		欠席	—
鹿児島中央		欠席	—
鹿児島西南		欠席	—
鹿児島城西			丸田 寿朗
鹿児島東		会長	入佐 光二
鹿児島北		職業奉仕委員長	上野 薫
鹿児島サザンウインド(2名)		奉仕プロジェクト部門リーダー	吉時 真也 中村 聡
奄美県	奄美	(地区委員出席)	—
	奄美中央	欠席	—
	奄美瀬戸内	欠席	—
鹿児島県分区合計			21

分区	R C 名	役職名	氏名	
宮城県北部	延岡	職業奉仕委員会 副委員長	笠井 幸司	
	延岡東	(地区委員出席)	—	
	延岡中央	幹事	川口 哲司	
	日向	奉仕プロジェクト委員長	日高 秀和	
	日向東	CLPリーダー	西盛 徹	
	日向中央	職業奉仕委員会 副委員長	三樹 正	
	門川	欠席	—	
宮城県中部	宮崎	欠席	—	
	宮崎西	欠席	—	
	宮崎北	欠席	—	
	宮崎南	欠席	—	
	宮崎中央	欠席	—	
	宮崎東	欠席	—	
	西都	欠席	—	
	佐土原	欠席	—	
	高鍋	職業奉仕委員長	河野 洋一	
	宮城県西部	えびの	欠席	—
小林		職業奉仕委員長	松岡 重孝	
小林中央		職業奉仕委員長	坂元 忠雄	
都城		幹事	西田 憲一	
都城北		職業奉仕委員長	園田 道雄	
都城西		奉仕プロジェクト委員会	高辺 晃也	
都城中央		奉仕プロジェクト委員会 委員長	牛鼻 浩志	
ジャパンカレントクラブ		奉仕プロジェクト委員	無漏田 幸呼	
宮城県南部		日南	職業奉仕委員長	中島 康雅
日南中央		欠席	—	
串間	会長・職業奉仕副委員長	飛永 善康		
宮崎分区合計			15	
65クラブ合計			36	

	R C 名	役職名	氏名	出欠
地区役員・委員	鹿児島東南	奉仕プロジェクト部門 部門長	山田 忠茂	×
	奄美	職業奉仕(4つのテスト)委員会 委員長	福永 健一	○
	延岡東	職業奉仕(4つのテスト)委員会 副委員長	吉村 隆明	○
	奄美	職業奉仕(4つのテスト)委員会 委員	岩崎 勇登	○
地区役員・委員 合計				3
総合計				39

◇人の心を読むサービス◇

(推理)



◇職業奉仕◇

◇知る・学ぶ・そして奉仕する◇

※ロータリーの根幹である

職業奉仕が すべての奉仕活動の

お手伝い お役に立てることが **職業奉仕**

職業奉仕（四つのテスト）委員会

# 職業奉仕



# 心の奉仕

- ぶれない心
- 面倒くさいことを 面倒くさがらずに  
実践する心
- 生かされた命・生かされている自己の生活に  
・・・のおかげでという 謙虚で 素直な心

心の奉仕である 職業奉仕の倫理運動について  
四つのテストを ベースに  
お互いの 倫理観を高めていきたいと思っています。

(ロータリアン同士)

# ※ロータリーの職業奉仕とは

- ロータリーの中で どのように 知るのか  
(事業所の中)  
そして それを
- ロータリーの中で どのように 学ぶのか  
(事業所の中)  
そして それを
- ロータリーの中で どのように 奉仕するのか  
(事業所の中) (実践)  
そして それらを
- 学んだのち どのように 実践していくのか  
そして 他の
- 奉仕活動のお手伝いを どのように していくのか

# 職業奉仕とは

面倒 くさいことを

面倒 くさがらずに

相手 が喜ぶことを

しっかりとやり遂げてこそ

満足 を超えた喜びが発生し

感動 となる

それこそが

奉仕 であり

心の奉仕 である、

そして それぞれが

専門職 を実践し活かしているところに

職業奉仕がある

奉仕の基本形である

職業奉仕とは

夢と感動を届ける

職業であり

奉仕でなければならない

職業奉仕 とは

私は 心の奉仕 と理解しています

それは個々の

専門職を通して、又は活かして

社会のため 世の中のために

(社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕等々)

お手伝いすることにある

(縁の下の力持ち的役割である)

もちろん

家族や関わるすべてを守ることも

職業ではあるが 奉仕とは 些か

ニュアンスの違いがあると思います。

よって

自己の生活は 他の営みによって

成り立っていると確信しています



よって

利己と利他の

バランスの規律を保っていく  
ことこそ

職業奉仕の役割と

今のところ 理解しています。

さらに 研鑽して

職業奉仕について

学習していきたいと思っています。

# 職業奉仕 私語録

||

## (心の奉仕)

職業をして対価を得るだけなら 職業にしかすぎない

対価を得るとともに、そこには映えない 何か

心のサービス・身を贈るサービス

良い から 満足 感動を 与える行動

顧客満足から 未知の喜び 感動 (意外性) を提供する

顧客感動へと 奉仕の在り方も変化しつつある

サプライズが起こるかどうかである

家族・従事者はもとより 己の事業に関するすべての人々へ

四つのテスト・職業倫理に 照らし奉仕をする

そして

心身を正し、その専門職が 世のため 人のために

なるよう 心の奉仕活動を実践していくことが

職業奉仕であり

職業は すべての奉仕のスタート (始まり) である

正しい

心がなければ すべての奉仕は成り立たない！！

## 職業奉仕とは

私は 心の奉仕と理解しています。

それは個々の専門職を通して、または活かして、

社会のため 世の中のために

(社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕等々)

お手伝いすることにある。

(縁の下の力持ち的役割である)

もちろん

家族と関わるすべてを守ることも職業ではあるが

奉仕とは些か ニュアンスの違いがあると思います。

よって、自己の生活は 他の営みによって 成り立っていると確信しています。

更に、利己と利他のバランスの規律を保っていくことこそ

職業奉仕の役割と今のところ理解しています。

要するに 自分の職業を大切にし

自分の職業を活かして多くの人々に また 社会に還元をする心を養う考動であり

そのためには

一人ひとりがモラル・倫理性をもって

一人ひとりの専門職を大切に活かすこと

いわゆる

自分の職業で得た知識で社会に貢献する

(自分の持っている) 職業で世の中の人を助ける 広く世の中のために尽くす。

職業は 生活の糧のためにあるが、生活の糧は、世の中からきているので

世の中へ還元することこそ 職業奉仕と言えるでしょう。

### \*活動方針

ロータリー綱領、

「超我の奉仕」を基本に四つのテストにある。

自分の職業に対し「誇り」と「愛情」を持って、

- ◇ 社会的使命感の重大性の認識をもって実践すること
- ◇ 正直かつ品位のある方法で仕事を実践すること
- ◇ 最高度の倫理基準と高潔性をはぐくみ推進していくこと
- ◇ 顧客の満足と感謝を生み信用性を高める努力をすること

### \*活動計画

- ◇ 自らの職業を通じて、地域社会・国際社会への奉仕貢献をする
- ◇ 新世代奉仕・クラブ奉仕との関わりも大切にす
- ◇ 職業能力を生かして、恵まれない人々に奉仕する

大切なものは 表には 映えない がしかし、心の中に 生きています 信じます。

心の奉仕こそ職業奉仕であり ロータリーの奉仕活動だと信じています。

心あるロータリアンにより この度の厚生労働大臣表彰の祝賀広告にあたっては大変お世話になりました。ロータリアンであってよかったと 日々感謝です。

私なりに 世の中のために ロータリー精神を学び 活動していきます。

さて、私の職業は 焼肉という食を提供して お客様から生活の糧を得ています。

大切なお客様へ お返し（奉仕）といったら、何が大切かと考えた時、やはり

お客様へ安心感と安全な食事（料理）の提供が一番です。でも、

安心・安全というところは、お客様に映えません。映えるのは、最高の笑顔で

接するおもてなし、そして、料理のおいしさ（味）は、映えます。映えるものと

映えないものが 両方ができます。一般的には、味とおいしさがよければ 商いは

成立します。でも、安心と安全が備わっていないと 経営は厳しくなります。

それは、耐震性の備わっていない建物も同じです。安心・安全は、ロータリアンの

職業奉仕とも 相通じるものがあります。ロータリアンは職業人の集いです。

自己の職業が しっかりと土台ができて、社会奉仕・国際奉仕等々につながっていきます。

その中で、社会奉仕等々は しっかりと映えます。しかし、

職業奉仕は 周りから映えない、映えにくい、だから

職業奉仕は わかりにくいという見解につながっていきます。でも、職業奉仕は

ロータリアンの根幹であり、看板と唱っているのも 大切な位置づけにあると

確信できます。要するに、ロータリアンの職業奉仕は あらゆる職業の中の

安心・安全の中に 又 心の中に生きている。

大切なものは映えない 心の中に宿る!!

最後に ロータリーは

出会いと人間力を高める

最高の道場であることを 改めて感じさせられました。

すべては 人々の喜びのために!! 奉仕を!!

## 「私の職業奉仕」

私の職業は、焼肉という食を提供して、お客様から生活の糧を得ています。

大切なお客様へ、お返し（奉仕）といったら何が大切かと考えた時、やはりお客様へ安心感と安全な食事（料理）の提供が一番です。

すべての人々の喜びのために可能な限りの奉仕を職業奉仕は、他の奉仕活動とは違って、これといって大きな活動はありません。

しかし、ロータリアンは職業人の集まりです。

職業なくしてロータリーは存在しません。

個々の職業が繁栄していくためにも、

個々の職業に関わるすべての人々に感謝する意味から、

安心・安全、そして高い倫理性をもって元気を提供することが、

私は、職業の一番の奉仕だと思っています。

ロータリーの職業奉仕は 倫理運動であること。

ロータリーは 職業奉仕を通じて、奉仕活動を行いながら  
お互いの倫理観を高めようとする運動を行う団体

「その根幹は<<愛>>であり思いやりの心」

社会奉仕の受益者は他人。

職業奉仕の受益者はロータリアン。

「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」

この奉仕は職業奉仕：自己の事業の顧客、関係者、社員等に対して思いやり、  
ロータリーの金看板、根幹、本質であると言われる職業奉仕を語るには、

やはりロータリーの歴史、発展の過程を論じないといけない。

創立時は親睦のみが目的、殺伐とした時代だった。

同業者は当然ライバルですから、一業種一人で各経営者が集まれば、気を許して話ができる。それが、相互扶助互惠取引が行われる様になり、商売繁盛に繋がった訳です。しかし、そんなクラブの有り様に批判があって、ポール・ハリスが世のためになることをしようと目覚めたわけです。

でも、その方針転換はクラブのおかげで商売が繁盛していた連中の反対もあり、スムーズには行かなかった。

当時のアメリカはこんな閉鎖的な物質的互惠主義の組織がたくさんあって、それが世間の批判を浴びたり、内部反発もあつたりして、どんどん削減していったようです。

そんな時、登場したのがシェルドンです。

事業の繁栄、永続は顧客や関係者への思いやりが必要。程々の利益でよいから、欲張っては駄目。具体的には、サービスが必要で、「Service」と定義。

ポール・ハリスが方針転換で目指した奉仕の理念を  
シェルドンが独自の経営学で理論づけていった。

一業種一会員制、例会出席の義務。その必要性をロータリアンが  
職業人の集まり、例会で職業を通じて社会に貢献・奉仕することの必要性を学び、  
業界をより良く変えて行くリーダーである。

そのサービス学に道徳的観念を取り入れ奉仕理念が標語として採択。

「He profits most who serves best『最もよく奉仕した人が最も多く報いられる』

続けて、一般奉仕理念として、

Serves above self 「超我の奉仕」が発表され、採択」

この歴史はロータリアンとしてロータリーの奉仕の原点である。

ロータリアンとしてそれをどう展開、実践すべきなのか、

この「職業奉仕」という言葉が、他の奉仕と違いその対象は特になく

ロータリー独自の専門用語。

儲け主義ではなく、顧客、関係者に配慮した経営手法、

それが結果として廻り廻って自己の繁栄に繋がる。

「四つのテストは、その倫理的行動を測るチェック項目として、ロータリアンだけでなく、一般の人達にも理解しやすいものとして広く使われています」

奉仕の理想 (ideal of Service) とは、職業における高い倫理性を維持すること、他人のことを思いやり、他人のために尽くすこと。

「始めに親睦、ここから職業奉仕が生まれ、社会奉仕に成長し、

それが広がって国際奉仕になったもの」

例会に出席することが職業奉仕のまず、第一歩であること。

例会で、職業について話し合い、意見を言い、自己研鑽をする場所であること。

職業に関係する話題、卓話が多くなれば、友人を例会に誘いやすくなる。

「社会奉仕、国際奉仕など外向けのボランティア活動は目立ってよいかもしれませんが、どうも職業奉仕に対して、ロータリアンの意識が薄くなっている」

ロータリーはこの職業奉仕という大きな特色があります。この特色を

どのように活かしていくかが今後のロータリーにおいての大きな課題。

職業奉仕はロータリーの活動の根幹として歩んできた考え方（理想・理念）であるが、今RIは職業奉仕の解釈を変えつつある。

皆様と職業奉仕について考えてみたいと思います。

職業奉仕とは

私は、心の奉仕と理解しています。それは個々の専門職を通して、または活かして、社会のため、世の中のために（社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕等々）お手伝いすることにある。（縁の下の力持ち的役割である。）

もちろん、家族と関わるすべてを守ることも職業ではあるが奉仕とは些かニュアンスの違いがあると思います。

よって、利己と利他のバランスの規律を保っていくことこそ職業奉仕の役割と今のところ理解しています。要するに、自分の職業を大切にし、自分の職業を活かして多くの人々に、また、社会に還元をする心を養う考動であり そのためには、

一人ひとりがモラル・倫理性をもって

一寸人ひとりの専門職を大切に活かすこと

いわゆる

自分の職業で得た知識で社会に貢献する。

（自分の持っている）職業で世の中の人を助ける。広く世の中のために尽くす。職業は、生活の糧のためにあるが、生活の糧は、世の中からきているので、世の中へ還元することこそ「職業奉仕」と言えるでしょう。



ロータリーの職業奉仕は倫理運動であること

ロータリーは職業奉仕を通じて、奉仕活動を行いながらお互いの倫理観を高めようとする運動を行う団体「その根幹は《愛》であり思いやりの心」

社会奉仕の受益者は他人 職業奉仕の受益者はロータリアン

「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」

この奉仕は職業奉仕：自己の事業の顧客、関係者、社員等に対して思いやり、配慮して、適正な利潤をあげるような経営手法・手段のこと

ロータリーの金看板、根幹、本質であると言われる職業奉仕を語るには、やはりロータリーの歴史、発展の過程を論じないといけない

創立時は親睦のみが目的 殺伐とした時代だった

同業者は当然ライバルですから、一業種一人で各経営者が集まれば、気を許して話ができる

それが、相互扶助互惠取引が行われる様になり、商売繁盛に繋がった訳です

しかし、そんなクラブの有り様に批判があって、ポール・ハリスが世のためになることをしようと目覚めたわけです

でも、その方針転換はクラブのおかげで商売が繁盛していた連中の反対もあり、スムーズには行かなかった

当時のアメリカはこんな閉鎖的な物質的互惠主義の組織がたくさんあって、それが世間の批判を浴びたり、内部反発もあったりして、

どんどん消滅していったようです

そんな時、登場したのがシェルドンです

事業の繁栄、永続は顧客や関係者への思いやりが必要

程々の利益でよいから、欲張っては駄目

具体的には

サービスが必要で、「Service」と定義

ポール・ハリスが方針転換で目指した奉仕の理念をシェルドンが

独自の経営学で理論づけていった

一業種一会員制、例会出席の義務

その必要性をロータリアンが職業人の集まり

例会で職業を通じて社会に貢献・奉仕することの必要性を学び、

業界をより良く変えて行くリーダーである

そのサービス学に道徳的観念取り入れ奉仕理念が標語として採択

「He profits most who serves best 「最もよく奉仕した人が最も多く報いられる」

続けて

一般奉仕理念として、Service above self 「超我の奉仕」が発表され、採択」

この歴史はロータリアンとしてロータリーの奉仕の原点である

ロータリアンとしてそれをどう展開、実践すべきなのか

この「職業奉仕」という言葉が、他の奉仕と違いその対象は特にない

ロータリー独自の専門用語

儲け主義ではなく、顧客、関係者に配慮した経営手法

それが結果として廻り廻って自己の繁栄に繋がる

「四つのテストは その倫理的行動を測るチェック項目として

ロータリアンだけでなく 一般の人達にも理解しやすいものとして  
広く使われています」

奉仕の理想 (ideal of Service) とは、職業における高い倫理性を維持すること、  
他人のことを思いやり、他人のために尽くすこと

「始めに親睦、ここから職業奉仕が生まれ、社会奉仕に成長し、それが広がって  
国際奉仕になったもの」

例会に出席することが職業奉仕のまず、第一歩であること。

例会で、職業について話し合い、

意見を言い、自己研鑽をする場所であること

職業に関する話題、卓話が多くなれば、友人を例会に誘いやすくなる

「社会奉仕、国際奉仕など外向けのボランティア活動は目立ってよいかも知れませ  
んが、どうも職業奉仕に対して、ロータリアンの意識が薄くなっている」

ロータリーはこの職業奉仕という大きな特色があります。この特色をどのように  
活かしていくかが今後のロータリーにおいての大きな課題

「職業奉仕はロータリーの活動の根幹として歩んできた考え方

(理想・理念) であるが、

今 R I は職業奉仕の解釈を変えつつある

皆様と職業奉仕について考えてみたいと思います

# ◇人の心を読むサービス◇



## ◇職業奉仕◇

### ◇知る・学ぶ・そして奉仕する をテーマに◇

#### ●職業奉仕（四つのテスト）委員会・勉強会開催について

※ロータリーの根幹である職業奉仕がすべての奉仕活動の

お手伝い お役に立てれるよう 職業奉仕の定義について

田中作次さん（パスト RI 会長）のビデオ研修のあとに

※四つのテストをベースに 各クラブ・地区委員会の皆さんと  
勉強会を考えています。

委員会の皆さんの考え、思いを語り

ロータリーの活性化を図っていきたいと思っています。

国際ロータリー第 2730 地区 奄美ロータリー  
地区職業奉仕委員会 委員長

福永 健一